



平成28年3月22日
京都市立石田小学校
校長 上原 みゆき

石田だより 臨時号

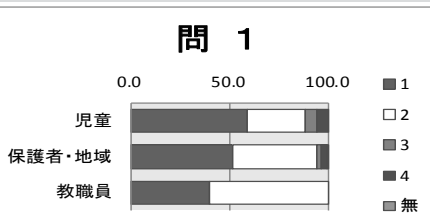
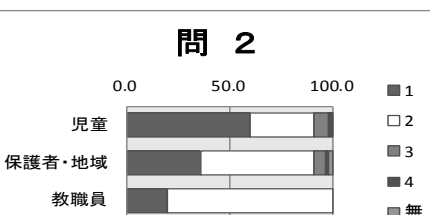
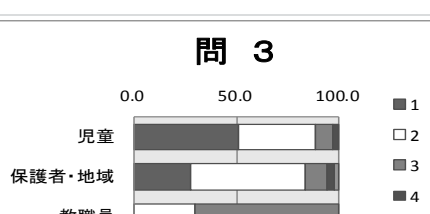
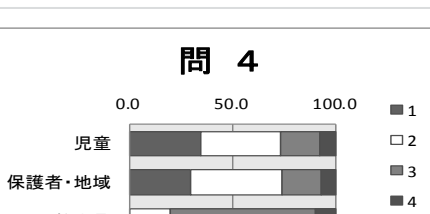
後期 学校評価結果について

春暖の候、保護者の皆様には、日頃より本校教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、過日実施いたしました後期学校評価アンケートの集計ができましたので結果をお知らせします。ご多用の中ご協力いただきありがとうございました。この結果を受け、子どもたちをよりよく育てていくために、保護者、地域、学校がより一層協力し合い、取組を深めていきたいと思ひます。

1  2  3  4  無答 

(よくあてはまる) (ややあてはまる) (あまりあてはまらない) (まったくあてはまらない)

1 楽しい学校			
児童	学校生活は楽しい	<div>問 1</div> 	児童や保護者・地域の方は、8割以上が、教職員は全員が、楽しく、いきいきと過ごしていると答えています。しかし、「3」「4」の思いを持っている児童や保護者・地域の方がおられることを考え、次年度は、学校生活の中で全ての子どもたちが、楽しくいきいきと過ごせるように、取組を見直していきます。
保護者・地域	子どもは、学校で楽しく生き生きと過ごしている		
教職員	子どもは、学校で楽しく生き生きと過ごしている		
2 授業研究			
児童	先生は、ていねいにわかりやすく教えてくれる	<div>問 2</div> 	後期も、同じように、8割以上が「分かりやすい授業を進めている」と答えています。しかし、やはり、1割近くの方が、「3」「4」と答えています。来年度は、この一年のご指摘を考慮し、児童一人一人の課題が解決できるような授業を進められるように努めていきます。
保護者・地域	先生は、子どもにわかりやすく授業を進めている		
教職員	先生は、子どもにわかりやすく授業を進めている		
3 学力向上			
児童	授業での学習がわかる	<div>問 3</div> 	児童で約1割、保護者・地域で約2割、教職員で約7割が「3」「4」と答え、基礎基本の学習が身につけていないと感じています。学校では、日々の授業を大切にすると共に、朝昼の帯学習で、読書や国語・算数の定着を図る取組をしています。来年度は、より以上に工夫した授業実践や、コミュニケーション力を高めるための取組を行っていこうと考えています。
保護者・地域	子どもは、基礎学力が身につけている		
教職員	子どもは、基礎学力が身につけている		
4 家庭学習			
児童	自分から進んで家庭学習をしている	<div>問 4</div> 	前期より、「1」「2」と答えた割合が増えている傾向にあります。しかし、学力を向上させるためにも家庭学習は欠かすことができません。しかし「3」「4」の割合が減少していることから、家庭学習に対する意識が少しは育ってきているのかと思われます。来年度は、さらに家庭学習の方法や内容などを含めて、家庭との連携を深めていきたいと思ひます。
保護者・地域	子どもは、家庭学習の習慣が身につけている		
教職員	子どもは、家庭学習の習慣が身につけている		

5 学校行事の充実			<p>問 5</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>児童 保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>	<p>今年度も、縦割り活動を充実させてきました。体験的な活動を多く取り入れたこともあって、全体的に肯定的にとらえられています。</p> <p>来年度も、児童の体験活動を増やし、自主性を育て、自信を持たせられるような取組を実施していきたいと思います。</p>
児童	学校の行事(運動会・宿泊行事・たてわり活動など)は、楽しくやりがいがある			
保護者 地域	運動会・学習発表会・宿泊行事などの学校行事は充実している			
教職員	運動会・学習発表会・宿泊行事などの学校行事は充実している			
6 思いやり・協力			<p>問 6</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>児童 保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>	<p>三者共に「1」「2」合わせて、9割近くが、「友だちを思いやり」「仲良く協力している」と感じています。しかし、児童の約1割が「3」「4」と答えています。今年は、道徳にも積極的に取り組み、思いやりの心を育ててきました。</p> <p>来年度は、「友だちを思いやり」「仲良く協力できる」集団作りを通して、子どもたちの達成感が感じられるような取組を、さらに計画していきます。</p>
児童	友だちと協力して仲良く学校生活を送っている			
保護者 地域	子どもは、友だちを思いやり、仲良く協力している			
教職員	子どもは、友だちを思いやり、仲良く協力している			
7 規律・マナー			<p>問 7</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>児童 保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>	<p>今年度、本校は、「あいさつ」「あとかたづけ」「学習中のルール」など徹底した取組を進めてきました。学校に来られた方はもちろん、教職員や友だち同士でも、元気な声で、あいさつを交わす様子がみられるようになってきました。</p> <p>しかし、児童の約2割が「できていない」と答えています。</p> <p>あいさつや後片付け、マナーの大切さが身につくような指導を来年度も続けていきたいと思っています。</p>
児童	進んであいさつや後片付けをし、ルールや決まりを守って生活している			
保護者 地域	学校は、集団での規律やマナーなどが身につくような取組を進めている			
教職員	学校は、集団での規律やマナーなどが身につくような取組を進めている			
8 健康・安全・体力			<p>問 8</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>児童 保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4</p>	<p>今年度は、5・6年の陸上練習や部活動の参加率の高さから、良い評価をいただくことができました。</p> <p>来年度も、さらなる向上と子どもたちの自信が持てるよう指導を続けると共に、健康面や安全面に対しても意識を高められるような取組を進めていきます。また、低学年の取組も考えていきます。</p>
児童	健康や安全・体力向上に気をつけて学校生活を送っている			
保護者 地域	学校は、子どもの健康や安全・体力向上の取組を進めている			
教職員	学校は、子どもの健康や安全・体力向上の取組を進めている			
9 一人一人を大切に			<p>問 9</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>児童 保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>	<p>本校の教育目標「一人一人が明るく生きる学校」の実現を目指して、児童一人一人のよさを認め、自信をつける取組を進めたり、児童や保護者の「困り」を把握するためにしっかり話を聞くように努めてきました。おかげ様で、ほとんどが肯定的に受け止めていただいておりますが、約1割の方に不十分という指摘があることを認識し、取組の見直しと改善を進めます。</p>
児童	先生は、学習やその他の活動で、自分が努力したことをほめてくれる			
保護者 地域	学校は、子ども一人一人の人権を大切にした教育活動を行っている			
教職員	学校は、子ども一人一人の人権を大切にした教育活動を行っている			

10 相談		
児童	先生は、困った時にそだんにつてくれる	<p>問10</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>児童 保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>
保護者・地域	学校は、子どもや保護者の思いを受け止め、相談に適切に応じようとしている	
教職員	学校は、子どもや保護者の思いを受け止め、相談に適切に応じようとしている	
11 情報発信		
保護者・地域	学校は、教育方針や取り組み内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている	<p>問11</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>
教職員	学校は、教育方針や取り組み内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている	
12 家庭・地域・学校の連携		
保護者・地域	学校・家庭・地域で協力して子どもの教育にあたっている	<p>問12</p> <p>0.0 50.0 100.0</p> <p>保護者・地域 教職員</p> <p>■ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無</p>
教職員	学校・家庭・地域で協力して子どもの教育にあたっている	

◆基礎基本の学力の定着を図るための取組

ジョイントプログラムやプレジョイントプログラムの結果から

- 国語全般に、全市平均に迫ってはいたが、「読む領域」と「言語領域」に落ち込みが見られる。
- 国語・算数とも基礎的な学力に課題がある。
- 国語では、「書く能力」、算数では、「数量関係をつかむ力」や「知識・理解」に課題が大きい。
- 社会では、「知識・理解」の力についてはついてきているが、資料活用など「技能」面で落ち込みが見られる。
- 理科に対しては、子どもたちは経験不足が多く、知識とずれが見られる。

今後の取組

- 読書週間の定着を図るために「めざせ100さつ読書マラソン」達成に取り組み、語彙力や作文力をつけていく。

- 学校では「言語活動」と「わかる授業」の構築に努め、基礎的・基本的な知識と共に技能の確実な定着を図るために、授業や帯時間を活用して指導の時間を確保します。
- 5・6年生の算数では、今後も習熟度別クラスで学習していきます。すぐに結果は出ませんがジョイントプログラムなどにおいてその結果を把握していきたいと考えます。今年度実施したジョイントプログラムの結果や考察・対策などについては、今後の懇談会などで伝えていきます。
- 理科学習においては、具体物から始まる授業を意識し、経験や知識とのずれを少なくし、具体物を見ることで授業の見通しが持てるような授業を進めていきます。
- 全学年で家庭学習の習慣化を図っていく。毎日の積み重ねが基礎学力定着につながるので、子どもたち一人一人に応じた家庭学習の方法や内容を考えていく。

※なお、この調査はあくまで学力の一部の調査です。この結果にとらわれすぎないように、一人一人の姿を今後も見つめていきます